

腎臓内科 研修カリキュラム

【科の紹介】

腎臓内科は、ネフローゼや腎炎、腎症、透析はもとより全身管理を行っている科です。特に腎機能が低下した症例では、腎臓の評価はもとより血圧は？貧血は？（腎性貧血の合併があるかということ）、電解質などのバランスは？ホルモン（副甲状腺ホルモンなど）は？心臓は？血管は？動脈硬化は？骨の変化は？食事療法は？投薬量は？と次から次へ全身状態を考えて治療を行っております。実りある研修ができるようお互い頑張りましょう！

A. 一般目標

腎臓病患者の診療、検査、診断、透析などの適応を決めることができる。また各科からのコンサルテーションに対応ができる。必要な専門科にコンサルトができる。

B. 行動目標

1. 医療面接と身体診察

1) 医療面接、身体診察を行い、病態の鑑別診断を挙げることができる

2. 検査・治療

検査

- 1) 病歴情報と身体所見に基づいて、行うべき検査や治療を決定できる
- 2) 腎臓疾患診断に必要な検査法を適切に指示できる。
- 3) 尿所見、尿沈渣の結果を解釈できる。
- 4) 血液生化学、血液電解質検査を解釈できる
- 5) 血液ガス分析を解釈できる。
- 5) 腎生検の適応と合併症が理解できる。
- 6) 腎生検の適応が判断できる。
- 7) 腎生検後の管理ができる。
- 8) 腎組織の診断方法（光顕、蛍光、電顕）が理解できる。
- 9) 検査所見から必要な処置がアセスメントできる。

治療

- 1) 体液量の評価ができる
- 2) 基本的輸液療法を指示できる
- 3) 腎炎、ネフローゼの治療が理解できる。
- 4) 保存期腎不全の管理ができる。
- 5) CKD ガイドに沿った保存期腎不全の管理が行なえる。
- 6) 透析の適応が判断できる。
- 7) 急性血液浄化の適応が判断できる。
- 8) ステロイド、免疫抑制剤の投与方法、副作用が理解できる。
- 9) 血液透析、腹膜透析の基本原則が理解できる。
- 10) 血液浄化療法を必要とする各種病態を理解できる

- 11)シャント作成、CAPD カテーテル挿入が理解できる。
- 12)血液透析、腹膜透析の合併症に対処できる。
- 13)緊急血液浄化の種類、適応、処置が理解できる。
- 14)FDL カテーテル挿入、カテーテルに関連した合併症が理解できる。
- 15)腎障害のある患者に対する薬物用量・用法調節ができる

3. 患者への説明・支援

- 1)腎臓病の食事療法を理解し指導できる。
- 2)腎代替療法の選択適応が理解でき、患者に説明ができる。
- 3)血液浄化療法開始などにあたり、インフォームド・コンセント、共同の意思決定の意義を理解できる

4. 医療記録

- 1)適切な診療録を作成することができる
- 2)患者の問題リストを作成することができる
- 3)入退院を判断することができる
- 4)保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案することができる
- 5)症例を提示・要約することができる

5. 経験すべき症候・疾病・病態

1)経験すべき症候

外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う

- a. ショック
- b. 関節痛

2)経験すべき疾病・病態

外来または病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療を行う。

- a. 心不全
- b. 腎盂腎炎
- c. 腎不全

C. 指導体制

1. 腎臓内科医師は指導責任者として、ローテーション期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医(指導医)が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

D. 研修方略

1. オリエンテーション:腎臓内科医師が担当
 - 1)研修カリキュラムの説明
 - 2)腎臓内科の概要
 - 3)受け持ち患者の割り振りと患者説明

2. 病棟研修

- 1)受け持ち患者の診療:毎日、身体診察及び神経診察を行い、患者の状態を把握する。必要に応じて夜間・休日も診る。
- 2)カンファレンス・回診に参加し、検査適応・治療方針を理解する。
- 3)検査適応・治療方針に基づき、指示並びに診療記録を行う:毎日、必要に応じて夜間・休日も行う
- 4)緊急入院患者があればその初期対応に参加する

3. 外来研修

必要時、外来担当医の指導の下に、問診、診察、検査処置、投薬を行う。

4. その他 救急患者の対応

指導医の下、その初期対応に参加する

5. 病理検討会、症例検討会に参加する。

6. 症例検討会で、今後の治療方針を含めた症例提示する。

【週間スケジュール】

	午前	午後	夜間
月曜日	外来 透析 手術	外来 透析 手術	
火曜日	CAPD 外来 透析	CAPD 外来 透析 シャントPTA	症例検討会
水曜日	外来 透析 手術	外来 透析 手術	病理検討会
木曜日	外来 透析	外来 透析	
金曜日	外来 透析	外来 透析	症例検討会
土曜日	透析	透析	

【定例研修会等】

- * 日本腎臓学会、日本透析学会、内科学会などへの参加。
- * 地域の開業医先生方とCKD 病診連携を行っている。

E. 研修評価チェックリスト

1. 医療面接と身体診察

- 医療面接、身体診察を行い、病態の鑑別診断を挙げることができる

2. 検査・治療

- 病歴情報と身体所見に基づいて、行うべき検査や治療を決定できる
- 腎臓疾患診断に必要な検査法を適切に指示できる。
- 尿所見、尿沈渣の結果を解釈できる。
- 血液生化学、血液電解質検査を解釈できる
- 血液ガス分析を解釈できる。
- 腎生検の適応と合併症が理解できる。
- 腎生検の適応が判断できる。
- 腎生検後の管理ができる。
- 腎組織の診断方法(光顕、蛍光、電顕)が理解できる。
- 検査所見から必要な処置がアセスメントできる。
- 体液量の評価ができる
- 基本的輸液療法を指示できる
- 腎炎、ネフローゼの治療が理解できる。
- 保存期腎不全の管理ができる。
- CKD ガイドに沿った保存期腎不全の管理が行なえる。
- 透析の適応が判断できる。
- 急性血液浄化の適応が判断できる。
- ステロイド、免疫抑制剤の投与方法、副作用が理解できる。
- 血液透析、腹膜透析の基本原理が理解できる。
- 血液浄化療法を必要とする各種病態を理解できる
- シェント作成、CAPD カテーテル挿入が理解できる。
- 血液透析、腹膜透析の合併症に対処できる。
- 緊急血液浄化の種類、適応、処置が理解できる。
- FDL カテーテル挿入、カテーテルに関連した合併症が理解できる。
- 腎障害のある患者に対する薬物用量・用法調節ができる

3. 患者への説明・支援

- 腎臓病の食事療法を理解し指導できる。
- 腎代替療法の選択適応が理解でき、患者に説明ができる。
- 血液浄化療法開始などにあたり、インフォームド・コンセント、共同の意思決定の意義を理解できる

4. 医療記録

- 適切な診療録を作成することができる
- 患者の問題リストを作成することができる
- 入退院を判断することができる
- 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案することができる
- 症例を提示・要約することができる